

<教育実践研究>

医学科学生に対する福祉教育の実践に関する研究

- ストレングスモデルの学習に関するパイロットスタディ -
細田武伸, 岡本幹三, 穆浩生, 大谷眞二, 黒沢洋一

Study on the practice of welfare education for medical school students
-A pilot study of Strength Model learning-

Hosoda Takenobu, Okamoto Mikizo, Haosheng Mu, Otani Shinji, Kurozawa Yoichi

キーワード：医学教育, 社会福祉教育, ストレングスモデル

Keywords : Medical school education, education, of Social Welfare, Strength Model

1. はじめに

大学の医師養成課程における教育内容は、文部科学省から卒業時に最低限履修すべき教育内容をまとめた『医学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－』が出され、各養成校がこれに基づいてカリキュラムを作成している。平成13年度に『21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－』の別冊として『医学教育モデル・コア・カリキュラム－教育内容ガイドライン－』が初めて提示され、以後平成19年度の大改訂を経て、最新の改訂は平成22年度に行われインターネット上でも公表されている¹⁾。モデル・コア・カリキュラムは、大学卒業時までには修得すべき総合的知識・技能・態度についての一般目標と到達目標が具体的に記載されており、コア・カリキュラムの内容については、全体のカリキュラムの約2/3程度の時間(単位)で修得し、残り1/3程度で各大学の特色のある選択カリキュラムを策定するものとされている。「医師として求められる基本的な資質」には、福祉に関連する領域として、平成19年度版モデル・コア・カリキュラムでは、「①人の命と健康を守る医師の職責への十分な自覚のもとに、医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位の立場に立つ。(中略)。④人間理解に立つ高い協調性のもとに医療チームの一員としての行動や後輩等に対する指導を適切に行える。⑥医師として、地域における医療・保健・福祉等の連携および医療の経済的側面等の医療を巡る動向に関心・理解を有する。」²⁾とされ、平成22年度版では、「豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の生命と健康を守る医師としての職責を自覚する。」「医療内容を解りやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。」「医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する。」などと、されている。さらに平成22年度版では、「医学・歯学教育における教養教育の意義」として、「大学における教養教育は人の知的財産を受け継ぎ、より良い形で受け渡すため、人が備えていなければならない知的的好奇心と知的行動力を養うことにある。人文・社会科学系では、人の知的遺産と活動を理解するための方法論を学び、(中略)。これらは、医師。歯科医師又は研究者になる前に人としての素養を養っていくものとして大切なものである。」³⁾とされている。

鳥取大学医学部医学科においても、平成24年1月現在、平成19年度及び平成22年度版の医学教育モデル・コア・カリキュラムに準じてシラバスが作成され、講義及び実習・演習等が行われている。平成21年4月より医学科に社会福祉士資格を有する専任教員が任用されたこともあり、平成22年度より、全学共通科目(教

養科目)として、米子地区に『社会福祉・社会保障』が開講されることになった。平成22年度は川延の『社会福祉教授法』⁴⁾を参考に、医学教育特有な事項を入れシラバスを作成して講義を実施した。平成23年度は、平成22年度の医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂を受け『社会福祉・社会保障』のシラバスを大幅に改訂し、表1の内容で実施した。平成23年度のシラバスでは、図1に示した席の配置図で着席したうえで、事例問題を基とした演習形式を主体とした内容で教授を行うことを基本とし、相談援助の視点・考え方と方法を習得することに力点を置いた。視点・考え方として教授を行ったのは、生活モデル (life model) の視点とストレングスとエンパワメントの考え方である⁵⁾。

本研究では、このうち授業の3回目に行ったストレングスモデルの学習について、履修学生に対する評価と今後の課題について抽出することを目的とした。

表1 『社会福祉・社会保障』シラバスの内容

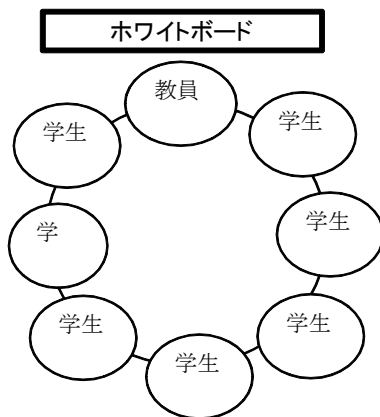
科目到達目標: 社会福祉の理念と実践を理解する

回数	講義内容	到達目標	講義のキーワード
1	講義ガイダンス	社会福祉の原理を理解する	ガイダンス、社会福祉の原理
2	社会福祉の概念と理念・歴史	社会福祉の理念と歴史について理解する	社会福祉の理念、近代史
3	社会福祉の援助方法と理論	援助方法と理論について理解する	援助理論、援助手法
4	福祉行財政と福祉計画	福祉の財源と行政の役割を理解する	財源、国・地方自治体
5	社会福祉の施設とサービス	福祉施設・サービスの概要について理解する	福祉施設と提供されるサービス
6	福祉職と社会福祉士の業務	福祉職、社会福祉士の役割を理解する	福祉3職種、社会福祉士
7	権利擁護と成年後見制度	成年後見人制度について理解する	権利擁護。成年後見人制度
8	高齢者に対する支援(1)	高齢者に対する支援について理解する	高齢者福祉、介護保険制度
9	高齢者に対する支援(2)	高齢者に対する支援について理解する	高齢者福祉、介護保険制度
10	障害者に対する支援	障害者に対する支援について理解する	障害者基本法、障害者自立支援制度
11	低所得者に対する支援	低所得者に対する支援について理解する	生活保護制度
12	児童・家庭に対する支援	児童・家庭に対する支援について理解する	家庭、市町村、児童相談所、児童福祉施設
13	学校生徒・児童に対する支援	生徒・児童の学習環境への福祉支援について理解する。	スクールソーシャルワーク
14	触法者への福祉、触法精神障害者への支援	触法者への福祉支援について理解する	更生保護制度、医療観察法
15	医療に現場における福祉の実践	医療福祉支援を理解する	医療福祉支援、MSW、PSW

人間力の要素: 共感的理解力、受容力、行動力

注: 網掛けの3回目にストレングスモデルの教授を行った。

図1 席の配置図



注: 学生の席は固定にならないようにする。

2. 対象と方法

対象は、平成23年前期(4月～7月)に鳥取大学医学部医学科学生を対象に全学共通教育科目として開講された『社会福祉・社会保障』を履修した8名の内、定期試験(単位認定試験)を受験した7名(4年生2名、3年生3名、2年生2名)である。方法は、まず教授方法として、『社会福祉・社会保障』講義時に前述の図1の形に学生および教員が着席した状態で、教員が読売新聞3月31日朝刊1面の写真(東日本大震災の震災孤児)を示し、それについて各自学生がどのように考えるか、まず自由に意見を述べた上で、教員が、表2の順にス

トレングスモデルに関するヒントを与えて、各自学生が自由に答えて、教員がコメントを附する形式で行い、最後にストレングスモデルの用語とその意味、援助の視点についての説明を行った。ストレングスモデルとは、被援助者が持つ、ストレングスに着目したモデルである。ストレングスとは、その長所・持ち味・特性・潜在的能力、包括する資源（家族・友人などにおけるソーシャルサポート）などを指している。このストレングスには、個人・集団・地域のレベルがあり、それぞれのレベルにおいてストレングスを見出すことができるとされている⁵⁾。分析は、定期試験において、図2の事例より個人レベル、集団レベル、地域レベルの順でストレングスを考察できる問題を出題し、記述により解答させ、その記述内容について分析し、個人レベル、集団レベル、地域レベルのストレングスへの理解度の分析を行った。分析は、社会福祉士及び精神保健福祉士資格を持つ教員1名が、ストレングスの定義に従って行った³⁾。

表2 スtrenグスモデルの教授方法

1	読売新聞3月31日朝刊1面の写真(震災孤児)を提示する。 ※ここでは画像から解る震災孤児(女児)以外の情報は伝えない。
2	この女児について、どう考えるか各自自由に意見を述べる。
3	読売新聞3月31日朝刊1面及び35面の記事に書かれている先の写真についての情報を伝える。
4	この女児について、どう考えるか再び各自自由に意見を述べる。
5	「震災を生き抜いている彼女の強みは何でしょうか？」と教員から学生に投げかける。
6	この女児について、どう考えるか再び各自自由に意見を述べる。
7	「彼女自身、彼女を支える家族、彼女を支える支援者の強みはなんのでしょうか？」と教員から学生に投げかける。
8	この女児について、どう考えるか再び各自自由に意見を述べる。
9	教員がストレングスモデルの用語とその意味、援助の視点について説明する。

注:1~9の順に学生に教授を行った。

図2 評価に用いた定期試験の出題問題

次の文を読んで問いに答えなさい。

S君(30歳、男性)は、医歴5年目の医師である。国立大学法人O大学を卒業後、都内のA病院にて2年間の初期臨床研修を終え、B病院にて後期臨床研修医(非常勤医師)として採用された。雇用契約は、3年の任期付き職員である。S君は循環器内科を専攻し、将来を有望視されるほど、勤勉で努力家であった。S君は今年3月頃より、仕事に疲労を感じるようになり、翌日もだるさ感が残るようになった。同年8月頃には、幻聴を感じるようになり、夜も眠れなくなり、医局にて自分の悪口を同室者が言っていると循環器内科長に相談するに至った。科長は、精神疾患を疑い、B病院精神科をS君に紹介し、S君は精神科受診後、療養のためB病院の関連病院である、C精神科病院に入院することになった。S君は都内に1人暮らしをしているが、出身はH県である。H県には、母(57歳)が1人暮らしをしている。父は20年前に離婚したまま音信不通である。S君の兄弟は、妹(27歳)が県内に婚姻して住んでいる。

問 A君の今後の進展についてストレングスモデル(ストレングス)から改善が望めると考えることを記述しなさい。

3. 結果

結果は、ストレングスモデルの評価として表3に示した。分析を行った7名中、個人レベルのストレングスの理解が出来ていた者が5名、集団レベルのストレングスの理解が出来ていた者が2名、環境レベルのストレングスの理解ができていた者が2名であった。全く、ストレングスの視点より記述ができていなかった者が1名であった。

表3 ストレングスモデルの評価

学年	ストレングス理解の視点 N(人)	個人レベル	集団レベル	地域レベル
		5	2	2
4年	A	○	×	○
	B	×	○	×
3年	C	×	×	×
	D	○	×	○
	E	○	○	×
2年	F	○	×	×
	G	○	×	×

注) ○は、理解している記述があったもの。×は、理解できる記述がなかったもの。

4. 考察

援助者がストレングスの考え方をいながら対人援助を行う場合は、被援助者の現在生じている現象を多角的にとらえる視点が必要であり、場合によっては現象を捉え直すことも必要となる。被援助者に生じている現象を問題行動若しくは問題のある人間であると捉えるのではなく、被援助者の潜在能力から生じている現象であると捉え、被援助者の潜在的な能力を多角的に検討していく⁵⁾。また被援助者を取り巻く集団、地域などの潜在的な能力の活用も多角的に検討し、被援助者が潜在的な能力を活用できるように支援していくことが対人援助の重要な視点となる。今回学習の分析も用いた事例問題から、個人レベル、集団レベル、地域レベルの3点のストレングスの視点より多角的に被援助者に生じた現象を被援助者らの潜在能力による活用を記述できていた者は、いなかった。また、3点の視点のうち、2点の視点より記述できていた者は、4年生1名、3年生2名であった。このシラバスの開講された、平成23年度前期は、4年生においては、基礎医学の学習がほぼ修了しており、3年生においても一部実習科目以外の基礎医学の学習がほぼ半分程度終わった時期であり、関連領域である社会環境医学の学習は、実習以外全て修了していた。このため、前記関連領域の学習と相まって、ストレングスの視点をやや理解しつつあったことも推測された。図2の事例問題からは、個人レベルのストレングスの視点は容易に考察することができるが、考察することのできなかつた1名は、集団レベルのストレングスの視点より援助する者を多角的に検討しており、個人レベルのストレングスを忘却した記述であった。また他の1名は、全くストレングスの視点より記述できておらず、病理モデルの視点からの記述であった。5名が記述していた、個人レベルのストレングスの視点は、事例問題の問題文から容易に読み取れる、被援助者となるS君の「勤勉で努力家であった。」という語句より、S君の潜在能力に着目したものが殆どであった。2名が記述していた集団レベルの視点は、S君の実家が職場とは異なるH県にあり、H県にはS君の母と妹が住むという点に着目し、本文中から家族関係が崩壊していいないことを読み取り、家族の潜在能力の発揮という視点と、S君の所属する循環器内科医局の科長が精神科を紹介したという点に着目して、職場である医局の人的支援の潜在能力に着目した記述であった。2名が記述していた地域レベルのストレングスの視点は、S君の実家のあるH県の居住環境や、S君の出身大学であるO大学の職場と環境に着目し、その潜在能力について記述したものであった。全体として、事例問題によるストレングスモデルの理解はやや不十分であると思われる。この理由として、臨床実習を経ない学生にとっては、実際に医師が臨床現場で遭遇する可能性のある問題について想定することが難しいことなどが考えられた。

医師養成課程において福祉援助技術の教育を行う意義について

医師免許は、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司への任用資格の1つであり、一定の経験を有すると児童相談所所長の任用資格ともなる。これは、身体的・生理的機能を熟知し、疾病とそれに関連する

障害に知識を有するためと考えられるが、残念ながらモデル・コア・カリキュラムでは、福祉的支援には必須である生活モデルの視点に立った対人支援技術の学習については、記述されていない。保健・医療・福祉の連携については記述されているが、詳細な学習方法は、各養成校の裁量に任されている。社会福祉士、精神保健士、介護福祉士の福祉従事者は、対人援助技術として、被援助者の疾病または障害に焦点を当て、それに対する治療や解決策を見出す病理モデルだけでなく、被援助者の今の生活課題解決するために役立つ潜在能力やそのもの資源を把握することを基本とする生活モデル学習を行い、主に生活モデルによる支援を行っている。

生活モデルの学習は、医師が、患者が非日常である病床での療養から日常の生活者として社会復帰を支援する際に生活モデルの視点を持つことは有用であることは、あえて述べるまでもないが、福祉従事者との連携を視野にいれた場合、生活モデルによる支援を行う福祉従事者との基本的な視点の違いが理解でき、より連携が深まるのに役立つと考える。とりわけ生活モデルの基本であるストレングスモデルの学習は、初学者も理解しやすく有用であると考えられる。

本研究の限界について

本研究の限界として、第一に選択バイアスとして、分析対象者の偏りが挙げられる。『社会福祉・社会保障』は、全学共通科目として実施されている選択科目であり、受講動機は様々であると思われるが、少なくとも履修選択前にシラバスを閲覧若しくは先輩等より科目に関する情報を入手し、社会福祉に関する勉強をしようという動機をすくなく持っている学生であると推測することができる。すなわち、学習動機を持っている学生を対象に分析しており、必須科目のような学習動機の薄い学生も含めて分析を行っていないことがある。

第二に再現性が困難であることが挙げられる。分析対象者は学生であり、現在も引き続き、多かれ少なかれ関連する学習を継続している。このため、評価時にストレングスの視点より十分に記述できなかった者が、その後保健領域の学習など関連する領域の学習により現在は記述できるようになっている可能性も否定できない。

第三に、ストレングスモデルの学習と評価までの時間が空いていることが挙げられる。平成23年4月に90分授業1コマにおいて学習し、評価を行った単位認定試験は夏期休暇後の9月であった。このため、夏期休暇及び夏季休暇後試験勉強のため再度自己学習をしなければならず、ストレングスモデルによる視点と理解について忘却と知識の混同が生じた可能性も否定できない。

第四に、分析を1名で行ったため、ストレングスモデルの評価について、分析者の主観による影響を完全に排除できていない。

5. まとめ

平成23年度に米子地区で開講された共通教育科目である『社会福祉・社会保障』の学習内容の1つである、ストレングスモデルについて、個人レベル、集団レベル、地域レベルの視点より理解できているかどうかについて分析を行った。その結果、前記3点について全て理解できているものは0名、2点について理解できている者は3名、個人レベルの理解ができている者は5名、集団レベルの理解ができている者は2名、地域レベルの理解ができている者は2名であった。本年度の評価を活用して、次年度以降のカリキュラム改善に活用していきたい。

細田武伸、岡本幹三、穆浩生、黒沢洋一 (鳥取大学医学部医学科社会医学講座健康政策医学分野)

大谷真二 (鳥取大学乾燥地科学センター)

文献

- 1) 文部科学省高等教育局医学教育課. 医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 22 年度改訂版), 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 22 年度改訂版) の公表について.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-1/toushin/1304433.htm. (2010.12.20 情報入手)
- 2) 文部科学省. 医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 19 年度改訂版).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033/toushin/1217987_1703.html. (2010.12.20 情報入手)
- 3) 文部科学省. 医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 22 年度改訂版).
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433_1.pdf. (2010.12.20 情報入手)
- 4) 川延宗之著. 社会福祉教授法：介護福祉士・社会福祉士・保母養成教育の授業展開. 東京：川島書店，1997.
- 5) 社会福祉士養成講座編集委員会編. 新社会福祉士養成講座 4 現代社会と福祉 - 福祉原論 - 第 2 版. 東京：中央法規出版.
p 266 - 268, 2010.